

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】

ASEANの貿易統計(7月号)

～5月の輸出は自動車輸出が回復するも前年割れ続く

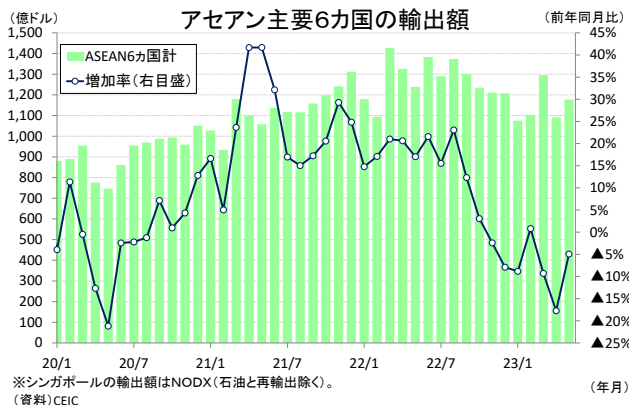
経済研究部 准主任研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

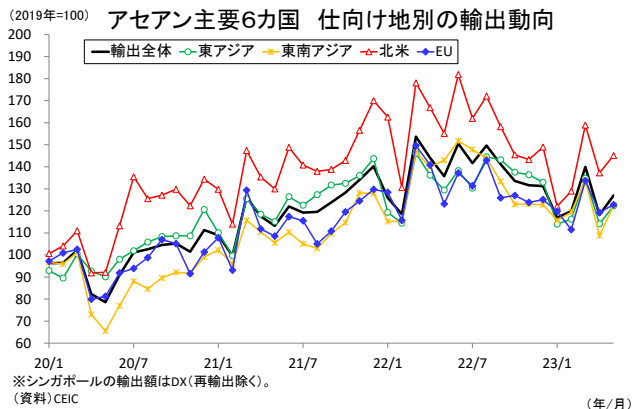
2023年5月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て、通関ベース）は前年同月比4.9%減（前月：同17.7%減）と減少幅が縮小したものの、3カ月連続の前年割れとなった（図表1）。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍からの回復や商品市況の高止まりにより好調が続いたが、その後は欧米を中心とした外部環境の悪化や資源価格の軟化により増勢が鈍化し、11月以降は減少傾向が続いている。5月はIT製品輸出が依然低迷したままだったが、自動車輸出が回復するなど一部で明るい動きもみられた。輸出の先行きは中国の経済再開による恩恵を受けて徐々に上向いていくものの、当面は金融引き締めの影響により欧米経済が減速するため持ち直しの動きは限定的となりそうだ。

ASEAN6カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、東南アジア向けが同14.2%減（前月：同22.3%減）と大幅な減少が続いた（図表2）。一方、北米向けが同6.4%減（前月：同17.7%減）、EU向けが同0.3%減（前月：同15.3%減）、東アジア向けが同5.5%減（前月：同16.2%減）となり、それぞれ減少幅が大きく縮小した。

（図表1）



（図表2）

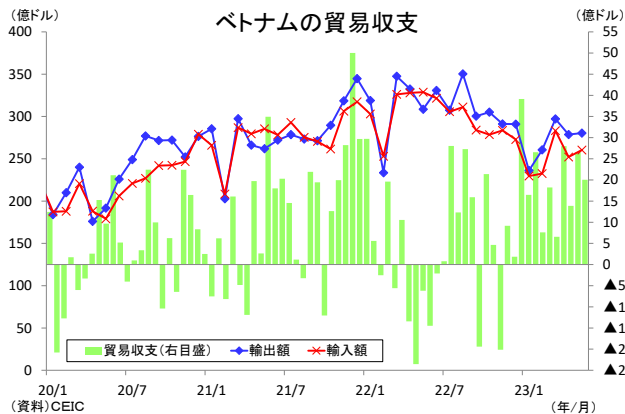


ベトナムの5月の輸出額（通関ベース、確定値）は前年同月比9.1%減（前月：同16.2%減）の280億ドルと減少幅が縮小したものの、3カ月連続の前年割れとなった（図表3）。輸出の基調は昨年後半までコロナ禍からの世界経済の再開や電子製品の需要拡大により増加傾向が続いたが、その後は世界経済の減速により主力のスマートフォンや電子製品、アパレル製品の出荷が振るわず減少傾向にある。また輸入額は前年同月比20.8%減（前月：同23.1%減）の260億ドルと低迷した。結果として貿易収支は+20.1億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から6.5億ドル縮小した。

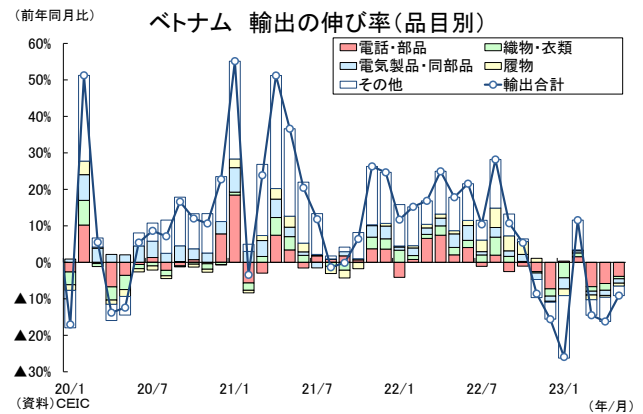
輸出を品目別にみると、輸出全体の約2割を占める電話機・同部品が前年同月比28.9%減（前月：同33.4%減）、コンピュータ、電子製品・同部品が同7.8%減（前月：同10.5%減）と低迷した（図表4）。アパレル関連についても履物が同11.8%減（前月：同8.6%減）、織物・衣類が同6.4%減（前月：同19.5%減）となり、引き続き減少した。農林水産物を見ると、水産物（同23.0%減）と天然ゴム（同12.8%減）は減少したものの、カシューナッツ（同11.4%増）と野菜（同159.9%増）、コメ（同12.8%増）、コーヒー（同18.3%増）が増加するなど、品目によってばらつきが見られた。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同11.6%減（前月：同17.3%減）、地場企業が同2.5%減（前月：同13.3%減）となり、それぞれ減少幅が縮小した。

（図表3）



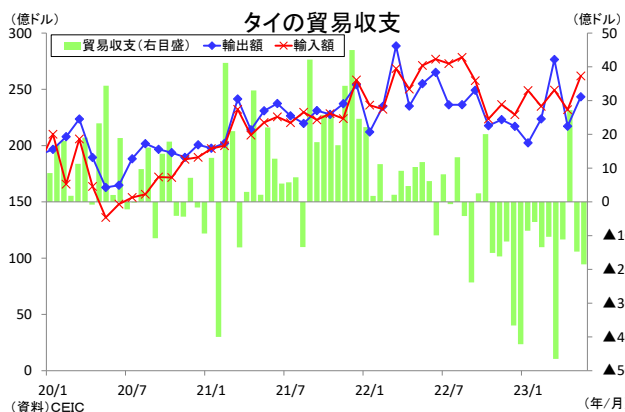
（図表4）



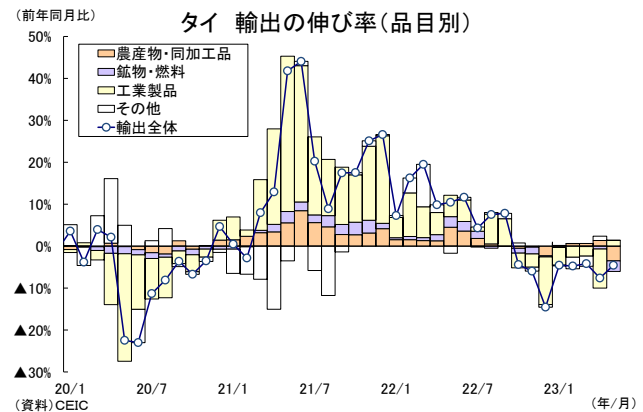
タイの5月の輸出額（通関ベース）は前年同月比4.6%減の243億ドルとなり、前月の同7.6%減から減少幅が縮小した（図表5）。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍からの経済活動の再開や世界的な電子機器の需要増加、国際商品市況の上昇などから増加傾向が続いたが、その後は海外需要の鈍化により減少傾向で推移している。また輸入額も前年同月比3.4%減（前月：同4.3%減）の261ドルと減少が続いた。結果として、貿易収支が▲18.5億ドルとなり、赤字幅が前月から▲3.8億ドル拡大した。

輸出を品目別にみると、全体の約7割を占める工業製品が同2.0%増（前月：同13.5%減）と8ヵ月ぶりにプラスの伸びとなった（図表6）。製造品の内訳を見ると、金属・鉄鋼（同14.4%減）や石油化学製品（同13.9%減）、電子製品（同5.5%減）、機械・装置（同0.2%減）が減少したものの、家電製品（同13.5%増）や自動車・部品（同7.2%増）が増加した。一方、鉱業・燃料は同43.6%減（前月：同14.8%減）となり、石油製品（同40.5%減）を中心に大幅に減少した。また農

（図表5）



（図表6）

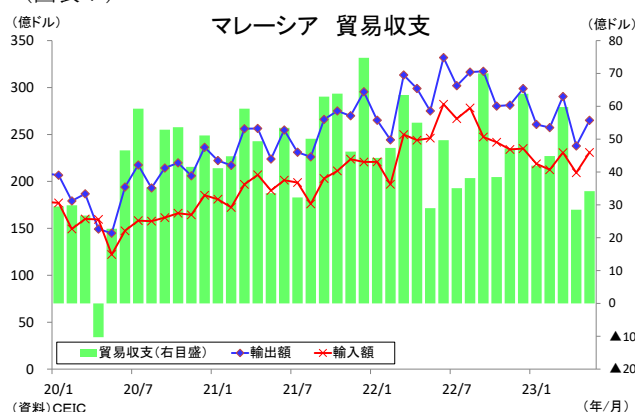


産物・同加工品は同13.9%減（前月：同5.7%増）となり、4ヵ月連続ぶりに減少した。農産物・同加工品の内訳をみると、コメ（同84.6%増）や畜産物（同43.8%増）は増加したものの、ドリアン（同65.1%減）や天然ゴム（同37.2%減）、ゴム製品（同10.3%減）、加工食品（同1.8%減）など、総じて減少した品目が多かった。

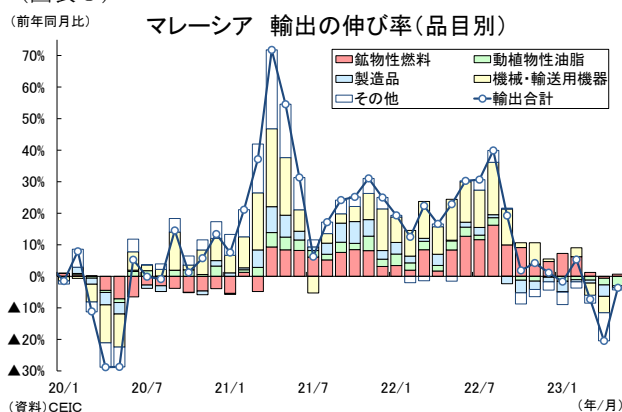
マレーシアの5月の輸出額（通関ベース、ドル換算）の伸び率は前年同月比3.6%減（前月：同20.5%減）の265億ドルとなり、減少幅が縮小した（図表7）。輸出の基調は昨年半ばまでコロナ禍で停滞した経済活動の再開や電気電子製品、石油ガス製品の需要拡大を追い風に増加してきたが、その後は世界的な需要減退と商品価格の下落により伸び悩み、足元では減少に転じている。また輸入額も前年同月比6.2%減（前月：同14.2%減）の230億ドルと減少した。結果として、貿易収支が+34.2億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から5.6億ドル拡大した。

輸出を品目別にみると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同0.1%減（前月：同12.3%減）となり、主力の電気・電子製品（同1.7%減）を中心に減少した（図表8）。またこのほか、コロナ特需が終息したゴム手袋（同39.3%減）のほか、動植物性油脂（同39.4%減）や化学製品（同11.6%減）なども減少が続いた。一方、鉱物性燃料は同4.0%増（前月：同4.5%減）と2ヵ月ぶりに増加した。鉱物性燃料の内訳をみると、原油（同8.3%減）が低迷したものの、石油製品（同10.4%増）と天然ガス（同6.1%増）が増加した。

（図表7）



（図表8）

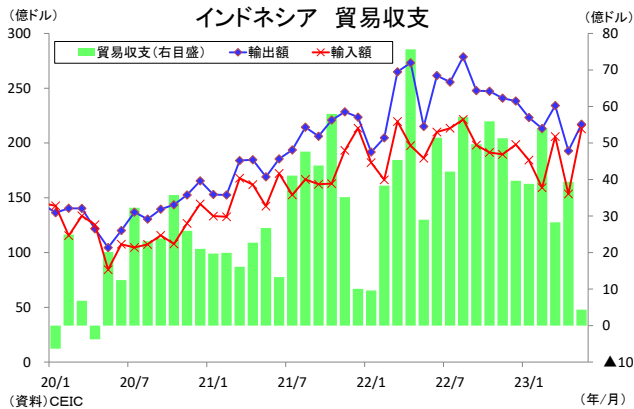


インドネシアの5月の輸出額（通関ベース）は前年同月比1.0%増（前月：同29.4%減）の217億ドルとなり、3ヵ月ぶりに増加した（図表9）。輸出は昨年半ばまでコロナ禍からの経済活動の再開や商品市況の高止まりにより好調が続いたが、その後は海外経済の減速やパーム油、石炭、ニッケルなどの主要商品の価格下落により輸出の勢いが弱まり、足元では減少傾向にある。5月の輸出はレバラン（断食明け大祭）の休暇明けで貿易取引が増えてプラスに転じたが、一時的な動きとなりそうだ。また輸入額も前年同月比14.4%増（前月：同22.3%減）の212億ドルと増加した。結果として、貿易収支が+4.4億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から35.0億ドル縮小した。

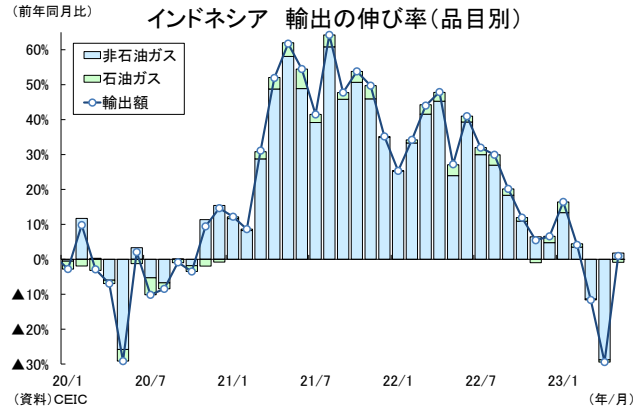
輸出を品目別にみると、石油ガス輸出は同12.1%減（前月：同12.2%減）と大幅な減少が続いたが、全体の9割を占める非石油ガス輸出が同1.9%増（前月：同30.4%減）と増加に転じた（図表10）。化学製品（同29.2%減）や鉄・鉄鋼（同25.7%減）、鉱産物（同18.3%減）、プラスチック・ゴム製品（同2.1%減）が減少した一方、動植物性油脂（同126.4%増）や自動車・同部品（同43.1%増）、機械類（同17.2%増）、電気機械（同14.8%増）、織物類（同7.5%増）が増加するなど、

品目によってばらつきが見られた。

(図表 9)



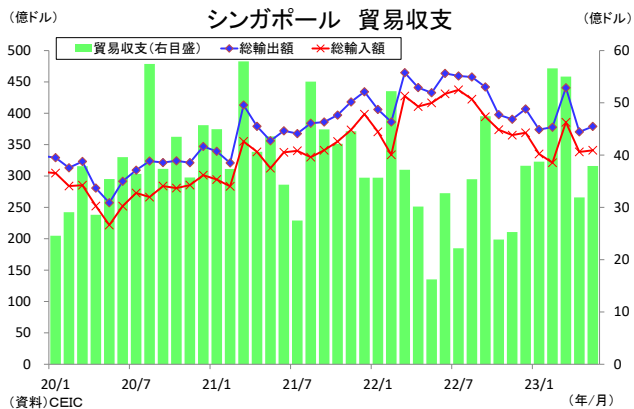
(図表 10)



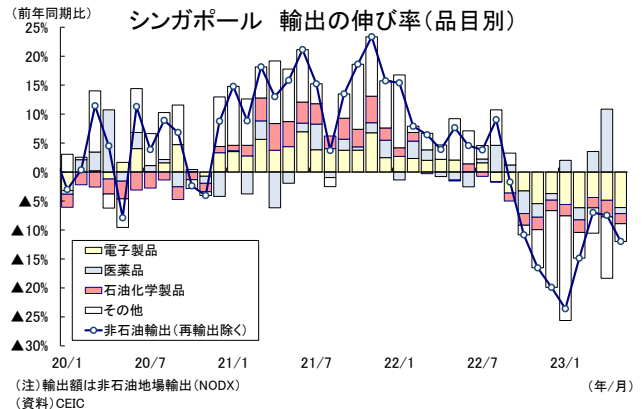
シンガポールの5月の輸出額(石油と再輸出除く、通関ベース、ドル換算)は前年同月比12.0%減(前月:同7.5%減)の106億ドルとなり、9カ月連続で減少した(図表11)。輸出の基調は昨年半ばまで世界的な電子製品の需要拡大や石油製品の価格上昇により増加傾向が続いたが、その後はアジア向けを中心に電子製品、非電子製品が振るわず減少している。なお、総輸出額は同12.4%減(前月:同16.0%減)の370億ドル、総輸入額が同18.1%減(前月:同17.6%減)の341億ドルとなり、それぞれ低迷した。結果として、貿易収支は+37.9億ドルの黒字となり、黒字幅は前月から6.0億ドル拡大した。

輸出(石油と再輸出除く)を品目別にみると、まず全体の約2割を占める電子製品は同24.8%減(前月:同21.3%減)と低迷した(図表12)。電子製品の内訳を見ると、主力のIC(同37.3%減)やディスクメディア(同39.7%減)、PC(同6.6%減)が揃って減少した。また全体の約3割を占める化学品も同17.6%減(前月:同17.7%増)となり、2カ月ぶりに減少した。化学品の内訳を見ると、石油化学製品(同20.3%減)に続いて医薬品(同11.2%減)が減少した。

(図表 11)



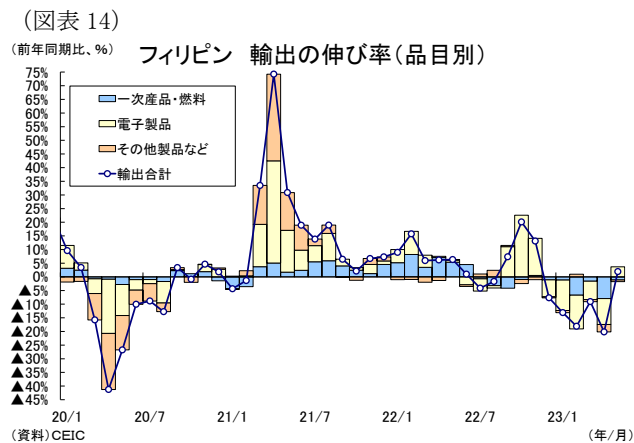
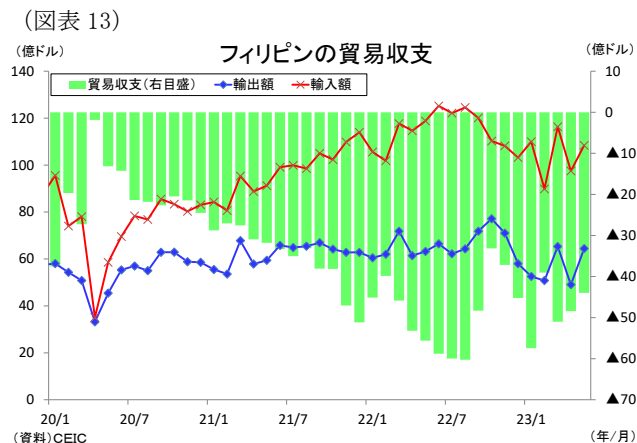
(図表 12)



フィリピンの5月の輸出額(通関ベース)は前年同月比1.9%増(前月:同8.8%減)の64億ドルとなり6カ月ぶりに増加した(図表13)。輸出の基調は昨年後半に電子製品を中心に増加傾向がみられたが、その後は世界的な需要が軟化するなかで主力の電子製品の出荷が落ち込み、減少傾向にある。5月の輸出は欧米向け、中国向け輸出が改善してプラスとなったが、輸入は低迷しており一時的な動きにとどまるとみられる。一方、輸入額は前年同月比8.8%減(前月:同15.0%減)の108

億ドルとなり減少幅が縮小したものの、7カ月連続の前年割れとなった。結果として、貿易収支は▲44.0億ドルの赤字となり、赤字幅が前月から4.5億ドル縮小した。

輸出シェア上位10品目をみると、まず輸出全体の6割弱を占める電子製品が同1.9%増（前月：同20.2%減）となり、6カ月ぶりに増加した（図表14）。電気製品の内訳を見ると、電子データ処理機（同43.1%減）は減少したが、主力の半導体デバイス（同15.9%増）が増加した。その他9品目については、金（同69.0%増）とイグニッションワイヤーセット（同50.4%増）、生鮮バナナ（同13.9%増）、その他製造品（同2.8%増）は増加したが、ココナッツオイル（同53.0%減）や化学品（同28.5%減）、製錬銅（同18.8%減）、機械・輸送用機器（同8.4%減）、その他鉱業品（3.0%減）が減少するなど、総じて減少した品目が多かった。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。